



ついこの間、お正月を迎えたと
思ったら、もうお盆の季節が
近づいていました。

かつて、お盆はご先祖さまのお
墓参りの期間であり、又都会で
働く若者や若い家族が実家に帰
り、親や兄弟、幼なじみと集う
場でもありました。

ところが時代の移り変わりによつて、都会
でも農村でも、段々と様子が変わつてきま
した。塾や夏期講習、部活動など、子供の
スケジュールにあわせたプランが練られ
時間のとれない親子のふれあいのため、山
へキャンプ・海へ水遊びそして海外旅行が
お盆期間のお休みにあてられたりしていま
す。

それでも私達の心の中には今でも、お盆
がずっと昔から伝えられてきた日本人の心
を育む、ゆかしい行事であるという思いは

しつかりと根ついていると思います。

盆はうれしや 別れた人も

晴れて この世へ会いに来る

— 巖谷小波作 —

七月、八月というお盆の季節は、科学文
明中心の現代に生きる私達が、日頃忘れて
いた「ご先祖」のことを突然身近に思う時
節だといえます。



お盆に思う

— 先祖供養 —

人間には「苦しいとき」「悲しいとき」
の他に、「さびしいとき」という感情があ
ります。

苦しみ、悲しみにあえていっている人からみれ
ば、「さびしい」などという心は甘えたも
のに思えるかもしれませんが、それでも幸
不幸に関係なく、さびしい時は誰でもさび
しいのです。



さびしいとき

私がさびしいときに

よその人は知らないの？

私がさびしいとき

お友達は笑うの。

私がさびしいときに

おかあさんはやさしいの。

私がさびしいとき

仏さまはさびしいの。

童話詩人・金子みすずさんはこんな詩を作っています。こつちのさびしさなど、「よその人」にわかるうはずがありません。

「お友達」だって「元気を出しなよ」と言
つて、肩を叩いてくれる程度です。

「お母さん」というと、ただオロオロし

て、おいしい物でも作ってあげようと思うのが精一杯です。一人ぼつちはどこまでい
つても一人ぼつちなのです。

ところがそう思いながらふと「仏さま」
のお顔をみると、仏さまはさびしいお顔を
されていたのでした。

「私がさびしい時に 仏さまはさびしいの」
というのは、私の心と仏さまのお心とはい
つもひとつなのだという意味です。

お盆がやつてくると、私達は先祖を拝み、
仏さまを拝みます。

先祖は仏さまに迎えられて、仏さまと一体
になつていきますから、仏さまをさびしがら
せると、先祖もさびしがります。

皆、手を取り合つて仲良くしていきまし
よう。時には冷たい風が吹いて来ることが
あつても、へこたれないで生きていきまし
よう。そして身近に苦しんでいる人、悲し
みにくれている人、さびしさに一人堪えて

いる人がいたら、そつと手を差し伸べて、一緒に歩んでまいりましょう。

仏さまはそれをみておられます。

ご先祖さまも、それをみておられます。

仏さまによるこんでいただけるような生き方をしていくことが、そのまま先祖供養につながる道であろうかと思われまます。

一口伝導板

○その他大勢でよい

自分の人生を生きればいいのです

○ありがたし

今日の一日もわが命

めぐみたまへり 天と地と人と

○たった一言が 人の心を傷つける
たった一言が 人の心を暖める

お寺から

○先の住職、斉藤一雄和尚の御母堂、和子様が四月三日に亡くなられ、去る五月二十一日に四十九日の法要をとどこおりなく終えました。

一雄和尚幼児の際に御主人であられた、義雄和尚様を亡くされ、幼き二人の子供様達の養育そして、寺院を護つていかれる御苦勞は大変だったことと拝察致します。

ゆかりの方々にお集まりいただき、教区の御坊様方によるお心のこもった読経をいただきました。お焼香を賜われました皆様方に深謝し、御報告申し上げます。

○施餓鬼会の御報告

当寺の二大行事でもあります、施餓鬼会が、五月十二日（五月の第二土曜日）にとり行われました。

本来なら、風の肌ざわり春めく好季の行

事となるところですが、本年は朝のうちから雨もパラつく、あいにくの天気で、御参拝下さる皆様方の足元を、気にしておりますでしたが、沢山の方々においでいただくことができました。

私達は、身近な仏様に対しては、一周忌三回忌といった具合に年回法要を営みますが、縁が遠くなつていく仏様方、ご先祖様方には特別、供養するという機会はまずありません。供養を受けない無縁仏様や三界の万霊に対し、皆で供養してさしあげ、その功德を各家のご先祖や各々念ずる処の仏様にめぐらし、むかわしめる法要が、施餓鬼会であります。

昔から、この一日、近隣・法縁の御寺院様方をお招きしての大法要を営んでまいりましたが、そのお坊様方が驚かれる程、年々、施餓鬼会にお塔婆をおあげして供養な

さる方がふえています。

又当日、皆で賑やかに歓談できる場ができたこと、この日を楽しみにして下さる方々もおられると伺い、嬉しく思っています。

○造園計画

境内地の造園計画が、いよいよ本格化してまいりました。総会の際、お話ししましたように、総世寺の境内地にソメイヨシノやウメモドキ、ツバキ等六十余本を植栽樹する計画であります。

おかげさまで、それらの木々を御寄付したいという、志しを伝えて下さる方々も出てまいりましたが、総代会の方々と話し合いながら、よりよい方法でお受けさせていただきます。ただきたいと思っております。その際には、御協力いただければ幸いです。存じます。

ありがとうございました。

—ボサ刈り御礼—

本年も施餓鬼会（七月の第一日曜、本年は七月二日にあたりました）を目前にひかえた、六月二十五日（日）の午前八時頃より、墓地裏山のボサ刈りを行う予定でおりましたが、朝からしとしとと降る雨のため翌、二十六日（月）に延期して行なわれませんでした。

二十五日は朝から、ボサ刈りが中止かどうかの電話が何通か入り、又「雨の中でも、小雨なので、出来るかと思つて・・・」と話されてボサ刈りの支度をして来て下さった方もおられて、皆様に、いろいろご迷惑をおかけしてしまいました。しかし足元がゆるくなつていてお怪我をなさつてはいけないので、二十六日に順延させていただいたわけですが、急な日程変更で、参加できなかつたことのおわびの電話を入れられ

た方もおり、恐縮しました。

施餓鬼会前のボサ刈りの企画は、皆様に少しでも多くお寺に寄つていただく機会をふやしたいとの思いが根底にあつて、参加をすることを義務やつとめとお思ひにならず「皆で、お寺をきれいにしよう」「皆で一つの事を成し終わつて、きもちがいいネ」といった案配ぐらいにお考えいただけたら嬉しいナと思つています。

本年、ご参加いただけただけの方の御芳名は

杉山明、宮川三四郎、城所久喜、中山繁三、添田宜本、岩本久義、近藤隆男、沢地松次郎、沢地正恵、池田康二、山本茂、添田照雄、鈴木渡、村越孝、中山隆三郎、磯崎徳治、重田福夫、泉陸子、中山喬、杉山昇宏、中山美平、木下文夫、小笠原実

以上です。

（敬称略）

改めて御礼申し上げます。

特別喜納者の紹介

○為慈明錦聖尼上座菩提供養

金五拾万円

加藤 修一殿

お心に添うよう、使わせていただきます。
ありがとうございます。

お寺から

○旅のお誘い

八月二十八日（月）～二十九日（火）

の一泊二日で、鬼怒川温泉の旅を企画致しました。

募集人員は三十名です。

平成の大修理を終えた日光東照宮の陽明門
眠り猫、鳴き龍などの見学も行程に入っています。

無理のない行程を組んでおります。皆さまの御参加をお待ちしています。
詳細は寺の方へおたづね下さい。